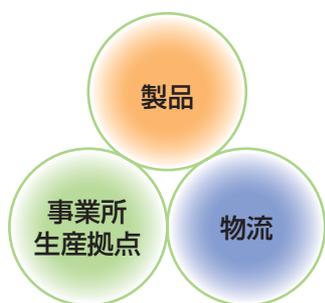


環境 「地球温暖化防止のための2010年度に向けた取り組み」

カシオは地球温暖化防止のための2010年度に向けた取り組みとして、①環境適合型製品の開発、②事業所・生産拠点の省エネルギーおよび、その他の温室効果ガスの削減、③物流の温暖化対策に関する行動目標を掲げています。(40、41頁参照)



3側面からのCO₂削減行動目標

製品に関する取り組み

カシオは創業以来、小型・軽量・薄型・省電力をコアコンピタンスとして、常に先行改善を行ってきました。電波ウオッチは、エネルギーを蛍光灯のわずかな光からでも取り出すことが可能なソーラー電池付きに全機種対応をめざしています。デジタルカメラは大画面2.8型の高輝度ワイド液晶をつけたにも関わらず、1回の充電で1千万画素のEX-Z1000の場合、静止画での連続再生時間が約13時間に延びました。

携帯電話においても、W43CAでは連続通話時間が約220分になっています。今後更に省電力化をめざします。

また、環境負荷の小さい小型燃料電池の研究開発を積極的に推進しています。(16頁参照)

事業所・生産拠点における取り組み

カシオの2005年度のCO₂換算総排出量は、国内外合計で13万2千トンでした。

2005年度の新たな取り組みとしては、「チームマイナス6%」へ正式に参画し、クールビズ等の活動を積極的に推進して来ました。事例としては、本社のクールビズ推進で19万Kwhの電力を2004年度比で削減できました。八王子技術センターではクールビズに加え、省エネ管理システムの運用に工夫を凝らし、下記コラムにある電力と都市ガスの両方の削減ができました。

また、八王子技術センターでは、生産拠点である高知カシオのNF₃ガス全廃に続き、SF₆ガス削減のための技術検討に取り組んでいます。

国内の電機電子4団体の1990年度対比2010年度省エネルギー削減目標はすでに達成していますが、社内目標を達成するためには、更なる施策が必要なる状況です。そのため、2006年度に以下の施策を検討し、2010年度に向けた推進を再構築していきます。

① 拠点別目標の設定及び施策

管理

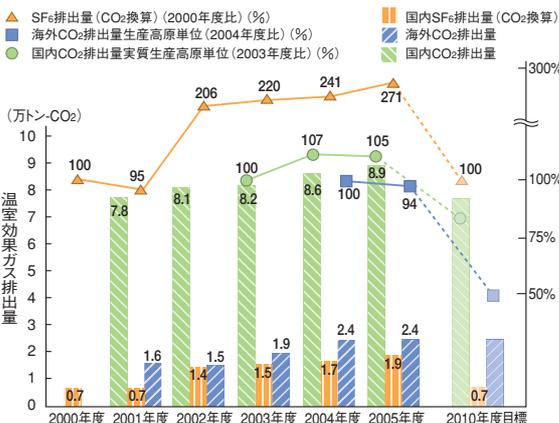
- ② 環境パフォーマンスが月次で分かる仕組み (ITツール導入)
- ③ 京都メカニズム等補完手段の導入 (CDM、排出権取引、グリーン電力証書、JI)
- ④ 省エネルギー設備投資戦略立案

物流の取り組み

国内物流センターの移転・統廃合の継続。海外物流においては欧州向け航空輸送の一部をドバイ経由の船+航空輸送に変更、北米向け輸送を船+鉄道輸送から船輸送のみにし、CO₂削減を図りました。

この様にカシオは、製品、事業所・生産拠点、物流の3つの側面から、地球温暖化防止に積極的に取り組んでいます。

国内・海外CO₂排出量・SF₆排出量および各原単位の推移



Key Man 人物紹介

八王子技術センターのCO₂削減に取り組んでいます



カシオビジネスサービス 八王子支店
ただかつゆき
多田 勝幸
(写真一番右、委員と共に)

私は八王子技術センター「省エネ運用検討会」の一員として活動しています。また、東京事業所と八王子研究所を統合した新しい省エネ

対応のビルを建てるという計画時点でのプロジェクトメンバーの一員でした。建設設計者と打ち合わせを行い、既存(東京十八王子)と比べ20%の省エネを目標に、最新の省エネ技術を採用し達成しました。その省エネ技術とは、蓄熱槽と翌日の気象予測を組み合わせた最適蓄熱システム【予測君】、縦型蓄熱槽採用による冷水搬送動力の削減、自然換気システム、空調・照明・換気・ブラインドの完全自動化運転、フリークーリングシステムおよび窓ガラスや建物の断熱対策等です。2005年は、クールビズに加え、完全自動による9モード運転の中間的な運転【まぜまぜモード】を手動で行うことにより、さらに省エネを図り、2004年度比で電力22万kWh、都市ガス3.1万m³を削減しました。今後も省エネ運用検討会を通じて省エネ施策を推進していきます。